

審査結果報告書

2023年 2月 2日

主査 氏名

高平 尚伸



副査 氏名

辻 尚利



副査 氏名

改 と 清 行



副査 氏名

福島 健介



1. 申請者氏名 : DM19023 宗重 響子

2. 論文テーマ :

透析患者の滑膜下結合組織におけるコラーゲン発現上昇と $\beta 2$ -microglobulin による発現制御の検討

3. 論文審査結果 :

手根管症候群(CTS)は手根管内を通る正中神経が圧迫されることにより、しびれ、痛みをきたす疾患であり、その有病率は4%にもものぼる。患者の生活の質、日常生活動作を著しく低下させる。さらに、社会生活、職業的機能を大きく妨げることから病態解明は極めて重要である。透析は手根管症候群発症のリスクファクターであることや手根管開放術後の再発率が高いことが報告されている。しかし、その原因、病態は明らかになっていない。従来、CTSの病態には横手根靭帯の肥厚による正中神経の圧迫が関与すると考えられてきた。宗重響子氏は、正中神経の周囲に存在する滑膜下結合組織に着目し、線維化に関連するコラーゲン遺伝子の発現とその発現制御因子を検討した。その結果、透析を受けているCTS患者では滑膜下結合組織におけるコラーゲン遺伝子(COL1A1, COL3A1, COL5A1)発現が亢進していることを明らかにした。さらに、COL3A1の発現は $\beta 2$ -microglobulin、p38 MAPK経路によって制御されていることを見出した。

本学位論文は透析患者におけるCTS発症メカニズムの一端を解明した独創的研究であり、審査員4名の意見は一致して、本申請論文が博士(医学)の学位に相応しい論文であると判断した。